



紙つぶて

大雨の後の晴れた朝、初冠雪が報じられた富士山を見たくて、横浜市内の自宅から十五分の鶴見川土手で富士山の見えるスポットへ出かけてみたのですが、早朝散歩で顔なじみの先客から「残念ながら雲が懸かっちゃってるよ」と教えられました。丹沢の青い山並みの向こうの富士の山影は、八合目付近から上は雲の中でした。

富士山の八合目以上は富士山本宮浅間大社奥宮の境内で、ご神体と考えられています。万葉の昔から歌に詠まれ、江戸時代には富士講でにぎわった信仰の山・霊山でした。江戸時代後期に、伊能忠敬やシーボルトの弟子二宮敬作による測量や気象観測など、信仰以外の登山が始まりました。明治二十八(一八九五)年の秋から冬にかけて野中至・千代子夫妻の八十二日間に及ぶ英

富士の女神

雄的な滞頂観測を経て一九三三年から、気象庁が一部を測候所として借用、現在は剣ヶ峯の庁舎とその周辺が国有地です。

山頂の奥宮と久須志神社には七月上旬に富士宮の本宮から神職が登って来られ、閉山まで滞在して結婚式などの行事が行われています。NPOが施設を借用するようになっても、気象庁時代と同様に開山祭・例祭などの神事にはお声がかかり山頂班長がお神酒を持って参上しています。

横浜からはるかに仰ぎ見たこの朝は、ご祭神の木花之佐夜毘売が初化粧を見られるのをためらっておられるようでした。人間たちの世界遺産騒ぎにご

不興でなければよいのですが。



(土器屋 由紀子＝富士山

測候所を活用する会理事)